



7月17日、多くの観光客が稲庭岳を訪れ、頂上からの眺めを楽しみました

われら仲間たち

岩誦坊クラブ

岩誦坊クラブ(田口俊夫会長)は、昭和52年に当地区の名水「岩誦坊」をPRしたいという杉沢地区、太田地区の農家の後継者で組織し、展望台・登山道の整備や看板の設置、「稲庭高原まつり」「稲庭スノーフェスティバル」などのイベントなどの活動を行っています。

これらの活動が実を結び、7月17日には、首都圏から約50人が稲庭岳を訪れ、駒形神社やブナ林の中を登山、頂上からの眺めを楽しみました。

田口会長は「稲庭は、四季それぞれに色々な表情があり、我々が自慢できる『宝』の山です。たくさんの人に来て欲しいと思います」と話してくれました。



「浄法寺塗は飾っておかないでどんどん使ってください。そうするととてもいい光沢が出ます」

滴生舎の小田島勇技師は漆の絵付け体験を終えた浄法寺小学校の児童に話しました。

二戸市浄法寺地区は国内産漆の約6割を占める日本一の産地。また国の伝統的工芸品に指定されている「浄法寺塗」の産地としても有名です。

素朴で重厚な浄法寺塗は、奈良時代の神亀5(728)年、僧行基が開山したと伝える天台寺が起源ともいわれています。

「御山御器(おやまごき)」の呼び方が今も残っているように、天台寺の僧自ら作っていた漆器が、その技術とともに庶民に広がり一大産業に発展したのでしょう。

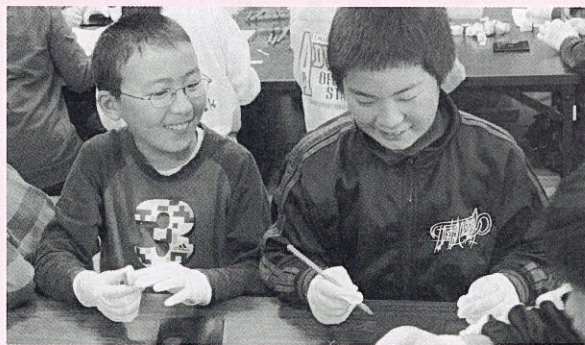
しかし、戦後プラスチック製品が普及すると、浄法寺塗は一転して「冬の時代」を迎えることになり、一時その生産は全く途絶えてしまいました。けれどもそこは日本一の漆産地。その後、何人かの方が浄法寺塗を復活さ

職人のぬくもりが伝わる浄法寺塗

せ、平成7年には天台寺の麓に「浄法寺漆芸の殿堂・滴生舎」が誕生しました。この施設では、浄法寺漆を使用した漆器などの製品を展示販売するほか、浄法寺塗の製作作業をガラス越しに見学できます。現在、滴生舎には20代～30代の3人の若い職人が刷毛を動かしています。

二戸市は、日本を代表する伝統工芸であり長い歴史を持つ「浄法寺の漆文化」を

受け継いでいかなければなりません。



楽しく真剣に絵付け体験しました

浄法寺塗は使ってこそ味わいの増す「普段使いの器」。どうぞ手にとってみてください。きっと、その温かさが手に伝わってくるはずです。

まちづくり相談会を毎月15日に開催しています

- ▷時 間 午後3時～7時
- ▷場 所 シビックセンター